

事業名	みずで あそぼう！まもろう！～ウォーターセーフティ教室～
申請団体	特定非営利活動法人 TEAM AVANTE
協働団体	石川県トライアスロン協会
申請区分	広域交流事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

- ・実施日：令和7年12月20日（土）ジュニア・親子の部／12月21日（日）成人の部
- ・会場：富山市民プール
- ・内容：ウォーターセーフティ講座、ライフジャケットの正しい着用・体験、実技（泳法・安全行動）
- ・広報：チラシ作成・設置、富山県・石川県の関係団体への周知、Meta 広告（Facebook/Instagram）配信（10月～11月）

【活動の成果や感想】

- ・延べ24名（富山県11名、石川県13名）が参加し、家庭単位で水辺の安全意識を高める機会となりました。
 ※内訳（延べ）：12/20 ジュニア参加者（子ども）5名＋保護者1名＋スタッフ4名／12/21 成人参加者9名＋ジュニア参加者1名＋スタッフ4名
- ・県外（石川県）参加者との交流を通じて、北陸エリアでの連携強化と関係人口の創出につながりました。
- ・参加者からは「子どもと一緒に学べて良かった」「ライフジャケットの重要性が理解できた」などの声が寄せられました。
- ・JLA インストラクターを招聘し「Lifesaving Supporter（サポーターズ）」講習会として実施。修了者へ修了証・クリアファイル・冊子を進呈し、富山県・石川県トライアスロン協会スタッフも受講しました。
- ・今後は継続開催と、令和8年度のジュニアライフセービングクラブ設立を目標に活動を拡充していきます。

事業名	第2回 復興ユース（若者）ミーティング
申請団体	ボランティア団体 萌乃架ネットいみず
協働団体	市民団体 ほっとなちゅれ
申請区分	広域交流事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

実施日 令和7年11月29日（土）

場 所 石川県輪島市町野町「もとやスーパー」

能登半島地震の被災地である奥能登に「被災地訪問バスツアー」を実施し、

①能登町こども食堂に射的やお菓子釣りゲーム・たい焼きブースを出店して賑わい作りに貢献した。また、地域住民や能登高校の生徒から震災当日の話しや半島が隆起して傾いてしまった町について話しを聞いた

②輪島市町野町に移動し、「もとやスーパー」店主より令和6年元旦の震災や同年9月に発生した水害での被害状況や当団体を含む県内外からの作業支援でスーパーが再建できたことについて話しを聞いた。

【活動の成果や感想】

被災地の今を知ること・自分に何が出来るのかを考える機会として今後も実施したい。

<富山大学理学部3年 太田二月>

能登半島地震で被災した奥能登地区の被害状況や人口が大きく減っている現状を見聞きすることが出来た。

自分に出来ることは何だろうと考えた時に、この土地に残っている児童・生徒への学習支援やトランプを使った遊びの提供・故郷富山県の話しをしに再度訪問したいと思う。

事業名	滑川トライアスロン 2025
申請団体	一般社団法人いきいきスポーツとやま
協働団体	公益社団法人日本トライアスロン連合
申請区分	広域交流事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

2025年7月13日（日）富山県滑川市滑川漁港周辺

海で1.5キロ水泳、特設コースで38.8キロ自転車、9.8キロのランでトライアスロンを開催した。この大会は4回目であるが、本年からは距離も長くなり、オリンピックディスタンスとして、日本トライアスロン連合と連携し全国的に正式なチャンピオンを決めるチャンピオンシップ大会に加盟した。

選手参加（県内37人、県外79人）、ボランティア200人、審判20人（県外10人、県内10人）計測、動画撮影、応援者など約550人がこの大会に当日関わった。

【活動の成果や感想】

今年は公益社団法人日本トライアスロン連合と連携し、正式な全国的なチャンピオンシップの大会にしたことで、昨年よりも県外からの参加者の割合が増え、年代別で1位を狙うレベルの高い選手が集まった。大会のグレードが上がると、観客や他の選手も影響を受けて、大会も盛り上がった。また参加者には自然を使って楽しむトライアスロンや滑川の海や景色の美しさを認識してもらえた、と実感している。

また、地元から写真展開催や会場無料貸与、物品の無料貸与など昨年よりも協力を得ることができた。昨年に比べるとより良い大会になったことが実感できた。

この大会も4回目、富山県内のボランティアや観戦者も増えたことで、関係人口の拡大が得られ、他県の選手と多くの県内のボランティアが触れ合うことで、幸福感、ウェルビーイングの向上につながった。

これが全国的な評判になってさらに来年はもっと参加者を増やし、県内の方にもトライアスロンを広めて盛り上げていきたい。

事業名	輪島市門前町の住民との交流
申請団体	特定非営利活動法人大空へ飛べ
協働団体	輪島市門前町道下第一・第三団地自治会
申請区分	広域交流事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

2025年11月8日（土） 輪島市門前町道下（とうげ）第一団地集会場前
「大空へ飛べ ミニコンサート」

- ・観客のみなさんと一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたりした。
- ・「大空へ飛べ」の歌やダンスを見てもらう。
- ・支援物資（米 1kg、りんご、レトルト食品）を観客一人に一セット配布。

【活動の成果や感想】

- ・子どもたちが歌い、踊る様子を見て、涙を流して喜ばれる方がたくさんおられた。
- ・「大空へ飛べ」が、支援を続けて交流してきた石垣就子さんが、宮城から駆けつけられた。会場設営や整理券の配布を積極的に行われた。宮城から菓子を持参され、住民に配布された。
- ・和光大学の制野先生（宮城出身）は、ゼミ生とともに支援活動を続けておられる。仮設住宅では、学生と指導されている金沢のぞみ保育園の保育士とともに「御神楽」の舞を住民の前で披露された。小・中学校へは8万円を寄付された。
- ・仮設住宅の住民、小中学校の校長からは、今後もぜひ交流を続けて欲しいと言われた。

事業名	地域交通を活用した上滝地区の賑わいづくり
申請団体	上滝みらいミーティング
協働団体	富山国際大学現代社会学部 上坂ゼミ
申請区分	県民協働事業



【活動内容】

大川寺噴水公園は噴水のある小さな美しい公園です。しかし近年、その花壇の手入れが行き届かず花の種類も少なくなっていました。そこで上滝みらいミーティングと富山国際大学現代社会学部の学生が協力して、6月から花壇の手入れを行い、コキアなどの数種類の草花を植えました。今年は夏が暑く雨が少ない年だったので、地域の人たちと大学生が手分けして、水やりや雑草取りなどの手入れを行ってきました。コキアが30～50センチに育った10月9日、地元の上滝小学校5年生の皆さんと一緒に、「コキアに目を付けよう」というイベントを行いました。コキアの目は、イベントに先立って大学生の指導のもとで小学生が思い思いのデザインで作成したものです。約30本のコキアが様々な表情こちらを見ているユーモラスな風景は、道を行く自動車や歩行者の目を楽しませたことと思います。

【活動の成果や感想】

大川寺噴水公園の花壇には、コキアを始めとしてニチニチソウ、メランポジウム、ポーチュラカ、ケイトウ、アジサイなどたくさんの花が開花し、とても賑やかな姿になりました。地域の小学生との連携が行われたり、ユーモラスなコキアの姿を見に来る人々も現れたり、従来よりも多くの人に来てくれる公園になりました。来年の春にはたくさんのチューリップが咲く予定です。毎年少しずつ改良を重ねながら、年々美しくなる大川寺噴水公園を目指して、地域の皆さんと一緒に活動を活発化させていきたいと思っています。活動を通して地域での楽しみが増え、大変うれしく思っています。

事業名	大学生が取材する「まちで語れる富山人」特集をつくろう！
申請団体	NPO まちなかライフスタイル研究会
協働団体	Labore 株式会社
申請区分	ワカモノ活動促進事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

「まちで語れる富山人」という WEB メディアを開設。地域の“会いに行ける”人々（店舗など拠点を持っている人）にインタビューを実施し、人を通して地域の魅力を発見・発信する企画を実施。

個別インタビューにとどまらず、「公開インタビュー」として、全員参加型のインタビューイベントも実施した。

◆イベント概要

日時：3月7日（土）16:00～18:00

会場：よんななハウス（富山市内）

参加費：無料

定員：20名程度（スタッフ含む）

軽食・ドリンクあり

【活動の成果や感想】

今回試験的に実施した公開インタビューは、「未完成のものをみんなで作り上げる」臨場感と特別感が合いまった空間となり、参加者からも面白い企画だったと好評を得ました。若者を含む関係人口層にも参加いただき、地域の人たちのことをもっと知りたい、という思いにも触れることができました。WEB 上でのインタビュー記事の公開とともに、リアルな場づくりの大切さを改めて感じる事ができたので、今後の活動にも生かしていきたいと思えます。

事業名	fork fes 2025 秋の収穫祭
申請団体	fork toyama
協働団体	F-35
申請区分	県民協働事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

令和7年10月5日（日）舟橋村駅に隣接する無料の学童保育「fork toyama」にて、秋の収穫祭と題して、「食・農」のイベントを開催。約500名が来場。

- ・若手農業関係者団体F-35を中心とした県内農家による農産物販売
- ・F-35による野菜クイズ大会
- ・富山県産野菜や果物を使用した料理やドリンクの販売
- ・とやまテロワールベジの意識調査

【活動の成果や感想】

本取り組みの成果として、野菜クイズなどのコンテンツを通して、親子共に楽しんでいただき、地元のものを買おうという気持ちを醸成できたこと。富山の農・食の魅力を親子世代に届けることができたこと。また、イベントだけに終わらず、その後も事業者間の連携につながっていることも大変貴重な成果の一つと考えております。さらに。農家が行っている収穫体験への関心を喚起したり、購入できる販売所（スーパーなど）に興味を持って頂いたりなど、次のアクションに繋がったことや、関連事業者間のつながりが強化されたことを非常に嬉しく思います。今後も取り組みを強化していければ幸いです。

事業名	ウォーターセーフティ講習会
申請団体	滑川ライフセービングクラブ
協働団体	富山県トライアスロン協会
申請区分	県民協働事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

2025年11月30日（日）、八尾B&G海洋センタープール、10時から13時まで。受講生19人。（県内17人、県外2人）日本ライフセービング協会から講師を呼び、ウォーターセーフティ講習会開催。

海、河川、用水路、プール、風呂場などの水辺の事故が起きた時にどうやって対処するか、水の中での移動や、水の性質、ライフジャケットの着方、水の中での浮き方、泳がないで陸から安全に溺れた人を助ける方法を学び、試験を受け、認定をもらった。富山県トライアスロン協会と滑川ライフセービングクラブとの協働事業。

【活動の成果や感想】

富山県内でトライアスロンやマラソンや水泳を日常からやっている受講生が多く、普段泳いだり、スポーツをやっている人にも水辺の事故が起こること、注意や対策が必要であることを広く知らせることができた。

事業名	外国人住民・自閉スペクトラム症・医療的ケア児がいる場合の 災害時対応ワークショップ
申請団体	NGO ダイバーシティとやま
協働団体	富山県自閉症協会
申請区分	県民協働事業



【活動内容】

災害時に外国人住民や自閉スペクトラム症の当事者、医療的ケア児やその家族が、地域で安心して避難・生活できることを目的に、研修やワークショップを3回実施しました。

外国人キーパーソンや自閉症・発達障害、医療的ケア児の支援関係者が参加し、多様な人が安心して過ごせる「理想的な避難所」をテーマにした研修とワークショップを行いました。医療的ケア児が災害時に困ることについての避難所事例を学んだ後、ジオラマを使って避難所づくりを行い、必要な配慮や工夫について意見交換をしました。

外国人留学生を対象に、避難所設置訓練と多文化災害訓練カードを用いたワークショップを実施しました。段ボールベッドや簡易トイレの組立て、非常食の炊き出しなどを体験しながら、災害時の行動や事前の備えについて学びました。多文化災害訓練カードはカードゲーム形式で留学生自身が「どのように安全に避難するか」「急な避難時に何を準備すべきか」「どのような行動を取るべきか」を主体的に学ぶことができ、自助の力を高めるとともに、将来的には災害時サポーターとして地域の高齢者や障害のある方を支援する行動へとつなげていくことが期待されます。

自閉スペクトラム症の当事者の青年を対象に、災害訓練カードを使ったワークショップを開催しました。災害時にどのような行動を取ると安心できるかを、当事者自身が考え、共有する時間としました。彼らならではの idea がたくさん飛び出し素敵な時間になりました。

【活動の成果や感想】

外国人住民、自閉スペクトラム症の当事者、医療的ケア児の家族、支援者、行政関係者など、多様な立場の人が一緒に災害時の備えについて考える貴重な機会となりました。体験型のワークを通して、「自分だったらどう行動するか」「どんな配慮があると安心できるか」を具体的にイメージすることができ、防災を自分ごととして考えるきっかけになりました。特に、多文化防災訓練カードは、言葉や特性の違いがあっても話し合いやすいツールとして有効であることが分かり、今後さらに改良を重ね、幅広い地域で活用していきたいと考えています。

事業名	富山県と首都圏の人材とビジネスを繋ぐ 「TBC (TOKYO-TOYAMA BUSINESS CONNECTION)」事業
申請団体	特定非営利活動法人 ToYAMA
協働団体	Tokyo-Toyama Business Connection
申請区分	広域交流事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

令和8年1月25日、都内にて、富山県と首都圏を繋ぐビジネス交流会「TBC ビジネスマッチング交流会」を実施しました。過去のイベント参加者およびその紹介により、意欲の高いメンバー18名の申し込みがあり、当日は16名が参加。

九段会館テラスのセミナー会場を借りての講演会や、参加者の自己紹介・事業紹介タイムを設け、充実した時間となりました。その後は「日本橋とやま館」内の「はま作」にて交流会を実施。フランクな雰囲気の中で、業種や年齢といった垣根を超えて活発な交流が見られました。

【活動の成果や感想】

今回、東京で開催した「TBC ビジネスマッチング交流会」は、参加者の92.3%から肯定的な評価を得る盛況となりました。富山という共通言語を軸にしたカジュアルな対話が奏功し、参加者の約4割が協業や発注など具体的なビジネス相談に至っています。

今回特筆すべき成果として、本イベントでの出会いを契機に、富山県内在住者が都内企業の「フルリモート社員」として内定を獲得する事例が誕生しました。これは、移住を伴わずとも地方人材と首都圏の企業が深く結びつくことができるという、新しい関係人口創出や多様な働き方を体現するモデルケースと言えます。

今後も参加者同士のコミュニティを育み、富山県の地域活性化や継続的なビジネス創出を推進する交流拠点の形成を目指してまいります。

事業名	地方創生×AI ハッカソン～富山の企業や農業の課題を AI で解決～
申請団体	任意団体いみずのめ
協働団体	株式会社 effortact、株式会社 JSOL
申請区分	広域交流事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

2025年10月11日（土）～12日（日）の1泊2日で、富山県立大学において富山県内ハッカソンを開催した。参加者は約30名で、3～4人の混成チーム（全8チーム）を編成。学生・社会人・エンジニア・デザイナーなど多様なバックグラウンドを持つ人材を組み合わせ、富山県内企業が抱えるリアルな課題に対し、AIを活用した開発による解決を目指した。

また、富山の魅力や街並みを体感してもらうことを目的に、移住体験施設での宿泊を実施。あわせて、運営側のAIメンバーや審査員、地元若手人材との交流機会を設け、技術面だけでなく地域との接点づくりも行った。

【活動の成果や感想】

通常は数か月を要するシステム開発を、運営AIメンバーの伴走支援のもと、各チームが1泊2日で最終発表まで到達するレベルに引き上げることができ、参加者のAI開発スキル向上に大きく寄与した。

また、プログラムを通じて富山への関心や関与意欲を高めることができ、終了後には1週間の移住農業体験を希望する参加者が2名、開発業務があれば2拠点生活を希望する参加者が5名生まれるなど、将来的な関係人口創出につながる具体的な成果が見られた。

技術開発と地域体験・交流を組み合わせることで、単なるハッカソンにとどまらず、地域との継続的な関わりを生む機会を創出できた点が大きな成果であったと感じている。

事業名	郡上踊り in 富山
申請団体	ODORI CLUB
協働団体	郡上おどり保存会
申請区分	広域交流事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

日付：令和7年10月12日

場所：富山県富山市新総曲輪 旧NHK跡地

具体的な活動内容：

郡上おどり保存会による郡上踊り練習会

郡上おどり保存会の生演奏による郡上踊り輪踊り

水舞流越中八幡太鼓保存会（富山県太鼓協会）による和太鼓演舞

富山商業高校吹奏楽部による演奏

民謡呉羽会による越中おわらの演舞と輪踊り

キッチンカーの出店

生産者による富山市産農産物の直接販売

【活動の成果や感想】

石川県、岐阜県、愛知県、神奈川県からの参加がありました。郡上踊り初心者の方も郡上踊りの輪踊り加わっていただき、盛大なイベントとなりました。車椅子で観覧にいらっしゃったおばあさまが「また来年も開催してください」と声を掛けてくださったのが、何よりもうれしかったです。

事業名	まちなか医薬学教室
申請団体	富山大学青い鳥
協働団体	富山市ファミリーパーク
申請区分	ワカモノ活動促進事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

本事業は、令和8年3月27日・28日の2日間、富山市ファミリーパークにて実施した。富山大学附属病院および各診療科の後援のもと、「動物の健康」と「人間の健康」を横断的に体験できるプログラムを展開した。

獣医師体験コーナーでは、吹き矢を用いた投薬の模擬体験やレントゲン画像の展示を通じて、動物医療における安全なアプローチや診断の視点を学ぶ機会を提供した。

また、富山大学 SALT と連携した一次救命処置の指導・実演では、倒れている人への初期対応や年齢に応じた適切な行動について学ぶ機会を提供した。ほかにも加えて、腹腔鏡シミュレーターを用いた腹腔鏡手術体験やぬいぐるみを用いた医師体験を実施した。

【活動の成果や感想】

本事業には2日間で延べ500名が参加し、想定を上回る来場が得られた。多くの参加者が複数の体験コーナーを体験し、動物医療と人の医療を比較しながら学ぶという本事業の目的に沿った参加行動が確認された。特に、ぬいぐるみ医師体験や獣医師体験では体験を通じて医療を身近に感じたとの声が多く見られた。

本事業を通じて、医療を「怖いもの」から「理解し、関わることのできるもの」へと捉え直す契機を提供するとともに、地域における医療・健康教育の重要性を再認識する機会となった。今後も本取り組みを発展させ、より多くの県民に対して継続的に学びの機会を提供していきたい。

事業名	ツギノメ～ものづくり産地の「次の手」を担う未来人材の育成～
申請団体	ツギノテ実行委員会
協働団体	高岡龍谷高校
申請区分	ワカモノ活動促進事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

富山県を舞台に、次世代を担う若者が地域産業と深く関わり、自らの手で「産地の未来」を形創ることを目的として「ツギノメ～ものづくり産地の『次の手』を担う未来人材の育成～」を実施しました。本プロジェクトは、高岡市営中央駐車場で令和7年10月18日・19日の2日間に開催された「クラフトフェア ツギノテ 2025」における「キッズスペース」の企画・運営を披露の場としています。

活動は、令和7年5月のキックオフから始まり、ツギノテ実行委員会と龍谷高校の生徒約30名が、年間を通じて密接に連携。月に1～2回の合同ミーティングを重ね、企画の立案から実行までを高校生が主体となって進めるプロジェクトとして推進しました。

【活動の成果や感想】

数値的な成果だけでなく、地域の未来に繋がる多くの定性的な変化が生まれたと感じました。

定量的成果として、2日間のイベント期間中にキッズスペースを利用した子どもたち、ファミリー層の来場者数増加と、全体の滞在時間の向上です。また、高校生が約10ヶ月にわたって地域産業と継続的に接点を持ったことは、将来の地域活動を担う「関係人口」の育成という観点で成果に寄与できたと考えます。

定性的な成果としては、「若者の意識変容」、「企業と次世代の橋渡し」、「地域社会へのインパクト」に繋げることができた点です。本事業は「廃材」という課題を、高校生自らが調査し、価値を見出しサービスの提供者になるきっかけに繋げる場に来たと考えます。この「ツギノメ」という芽を、今後、通年型のワークショップや他地域へのモデル展開、さらに大学生等への対象拡大を通じて、より強固な産地支援のネットワークへと展開していきたいと思ひます。富山県が誇るものづくり文化を次世代へ繋ぐための一歩に繋げていきたいと思ひます。

事業名	高齢者とワカモノが交流する商店街活性化推進事業
申請団体	NPO法人健康麻将越中ひばり会
協働団体	千成商店街協同組合
申請区分	県民協働事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

- 1・・・千成商店街活性化イベント SENnariコンテスト
- 2・・・開催要項の打合せ、参加グループの募集展開（9月～10月）
- 3・・・予選会（11/29、12/2）、本選ファイナル（12/7）の実施
- 4・・・意見交換会（反省会、2月）
- 5・・・実行委員会の設立に向けて

【活動の成果や感想】

今回は、太閤山地区などの高齢者と学生との交流イベントを開催して、老若男女が集う場所となるためのきっかけをつくりました。千成商店街のイベントは、7月末の『納涼祭』だけでしたが、学生さんが参加するイベントは初めてであり、高齢者とワカモノが交流するという地域活性化に寄与できました。また、幅広い世代が交流するきっかけとなり、参加したワカモノからの新しいアイデアが生まれ、県民のウェルビーイング向上につながった。

この協働事業で、学生さんと高齢者が交流できる良い機会となりました。また、地元の千成商店街を再認識する良い機会となりました。ありがとうございました。

事業名	とやま寄りそい居場所マップ WEB 版のプラットフォーム化事業
申請団体	一般社団法人 富山県若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会
協働団体	子ども市役所
申請区分	県民協働事業



【活動内容】（日付、場所、具体的な活動内容等）

県内の各種居場所をまとめた既製の「とやま寄りそい居場所マップ」WEB版を改良し、プラットフォームを作ることを目的とし、以下の活動を行った。

- ・ 9月9日 会合を開き、付箋を使ってみなでアイデア出しを行う。
- ・ 11月11日 会合を開き、各種機能の追加、新規の居場所の確認等を行う。
- ・ 12月 WEBデザイナーに依頼し、さらに改良を重ねる。
- ・ 3月 WEBページ改良版を完成させ、周知を図る。
- ・ 3月24日 会合を開き、振り返り・報告をする。

【活動の成果や感想】

- ・ 新たな居場所や相談窓口の掲載、検索機能の追加、イベントカレンダーの設置、YouTube動画のリンク貼り等を行った。
- ・ 協議会の持つ知識や経験、ネットワークと、協働団体が持つ子どもならではの発想や視点があわさり、大変、見やすく、親しみやすいマップを作ることができた。
- ・ より多くの方々に情報等を届け、不登校や引きこもり状態の改善や解消のきっかけになればと考える。
- ・ 居場所や相談窓口が見える化（可視化）をすることで居場所間や支援者間の連携、および官民連携が促進されるものとする。